

平成 29 度 第 1 回 学校協議会

平成 29 年 6 月 27 日（火）、本校校長室において、第 1 回の学校協議会を開催しました。公務の関係で、中谷健二委員が代理出席となりました。学校側からは、校長、教頭、事務長、各分掌長が出席しました。

今回は、今年度最初の協議会ですが、通常の授業見学ではなく、豊中高校能勢分校の開校にあたって導入予定のネット教室の視察をしていただくこととしました。そのうえで、その授業や分掌等の取り組み計画、SGHについて説明し、豊中高校能勢分校も含めた本校のこれからについて、多様な示唆をいただけるものとなりました。

内容

1. 協議会（その 1） 15：00～15：30

- ① 学校長挨拶
- ② 委員紹介・事務局員自己紹介
- ③ 運営マニュアル、実施要項、意見書についての説明
- ④ 協議事項
 - ・平成 29 年度学校経営計画について

2. ネット教室見学 15：45～16：30

委員の皆さまにネット教室の授業を見学していただきました。

3. 協議会（その 2） 16：30～17：00

- ④ 協議事項
 - ・授業見学について
 - ・分掌等の取り組み計画について
 - ・その他
- ⑤ 連絡
 - ・次回第 2 回の開催 11 月上旬に予定

4. 委員からの意見等

【学校経営計画・学校評価について】

○昨年度から変更したコンピテンシーは総合的な判断力という意味でよいか。授業力の向上はどうやって測るのか。

【授業見学について】

- 昨年度から研修の相互参加も取り組んでおり、校種の違いを見ることは重要。
- 能動的に勉強することは理想的。今日授業を見て、改めて講義型では生徒は寝るのは当たり前だと感じた。一方で、アクティブラーニング型の授業は、上手くいっている授業もあるが、擬似的な「集団の動き」だけで終わっている部分も感じる。
- 勉強が出来ても出来なくても、生きていく方法をしっかり学んでほしい。寝ている

- 生徒や言葉づかい等を見ると何を学んでいるのか、「社会に出て大丈夫か」と思う。
- 服を足元に置いているのはどうなのかと思う。ロッカーに入りきらないのか、全部持って移動しなくても良いだろうし、自己管理ができればと思う。
 - 若年者の肥満、未就職の問題を見ると、将来困らないために勉強するということを生徒が気づく、あるいは、教員がそれを伝えることが必要なのではないか。教員が、「生徒を引っ張っていく力」というものを意識できているのか。昨年度より今年、今年より来年と、教員自身が成長を意識することが重要。

【分掌等の取り組み計画について】

- 小学校では全員に宿題を出すことが重要。中学校ではそれが半減する。ホームページに宿題一覧を掲載して可視化しているが、中々成果が出ない。「意識を持たせる」ことの重要性を感じる。
- 授業中の子どもの声が、学年が上がるにつれて、聞こえにくくなってきているのではないか。当てられた子どもと教員の受け答えのみで授業が進んでいる。周りの生徒は聞いていない。アクティブラーニングの観点からすれば、このような状況はそれに全くそぐわない。
- 能勢分校は、やりたいことがなくても子どもを送り出せる学校、目標ない生徒が安心して行ける学校という印象がある。
- 遅刻日数の削減の実状については、特定の生徒の遅刻、欠席日数が突出している。小学校からそのような傾向のある子どもは存在する。
- 「全生徒がSGH」という観念があるが、SGSの選択生徒が、自分たちが何をやっているのかを、やっていない子どもたちに伝えるようにしてもらえば。
- 挨拶一つにしても、生徒から挨拶をすることが本来の形ではないのか。中学校では、「7月までに挨拶が出来るように」という目標を立てているが、充分できているとは言いがたい。家庭、地域も含めて、「挨拶をする」ということに取り組んでいかないといけないと感じた。町ぐるみで取り組む必要がある。
- 分校になっても、挨拶が出来ない、グラウンドは草が荒れ放題では話にならない。誰が来ても生徒も先生も一体となって、本校よりも分校と言われる状況を作り上げてほしい。「残った学校」の意味が、寝ている生徒や遅刻の多い生徒にまで広がっていかないと願う。
- 様々な場面で生徒を見ている教員の姿には感心する。能動的な学習としては、授業中の仕組みの工夫をお願いしたい。